

(1行あける)

構造工学論文集の完全版下投稿和文原稿の作成例

(1行あける)

Instruction for A4 size camera ready copy for Journal of Structural Engineering

(1行あける)

編集委員会*, 構造工学**

Editorial Committee, Structural Engineering

(1行あける)

*工博, 土木大学教授, 工学部土木工学科 (〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目)

**工博 建設大学助教授, 工学部建設システム工学科 (〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目)

(1行あける)

The journal will be produced by direct photo-offset printing. You must prepare your manuscript carefully according to this instruction. Please use only A4 size paper. The manuscript must be typed on the good quality white paper within the type area. For A4 paper, top and bottom margins are 20mm and 25mm respectively. Both left and right margins are 20mm. The use of high quality printer is recommended. For main text, please use 9.5 point Times Roman font, if is available. The line spacing must be single. Abstract should not exceed 10 lines (approximately 120 words) and should be followed by 3 or 4 key words. The left and right margins of abstract are 30mm.

Key Words: A4 size, use Italic, if possible, for key words

キーワード: A4判, キーワード記法, なるべく, イタリック体

(2行あける)

欧文タイトルは、文頭の最初の1文字および固有名詞の初めの文字のみ大文字として下さい。左例で J,S,E は固有名詞として大文字です。

1. タイトル部分のレイアウト

(1行あける)

タイトルページのフォーマットはこの作成例に従って作成して下さい。和文のタイトル文字には 14 ポイントの太字を使用します。以下、欧文タイトル、著者名、所属、アブストラクトを上例に従って9ポイント程度の文字を使用して作成して下さい。

(1行あける)

2. 本文のレイアウト

(1行あける)

本文は、上に指示するマージンの内側に、総幅 52 文字を 25 文字+スペース2文字+25文字の2段、50行で作成するものとします。用いる文字サイズは、9ポイント程度を標準とします。提出原稿は、縮小されないでそのままオフセット印刷され A4 サイズで製本されます。章、節、項の番号には **4 章の番号 4.1 節の番号 (1) 項の番号** のように指定して下さい。

付録

本文は、参考文献で終わるものとし、もし、付録を置く場合には、参考文献の前に置いて下さい。最終ページは、2 段組の両側の高さをなるべく同じ高さとして下さい。参考文献は¹⁾この例のように、上付き右括弧付き文字で指定します。参考文献の最後に論文の受付日を置

いて下さい。

5. 図、写真および表

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページにおき、直接本文中に描画することを原則とします。図は、例えば図 - 3 とし、図のタイトルとともに図の下に、表は、例えば表 - 2 とし、表のタイトルとともに表の上に表示して下さい。もし、図表を貼り付ける場合には、ペーパーボンドや両面テープを用いて確実に貼り付けて下さい。写真も同じように適当な接着剤を用いて貼り付けて下さい。

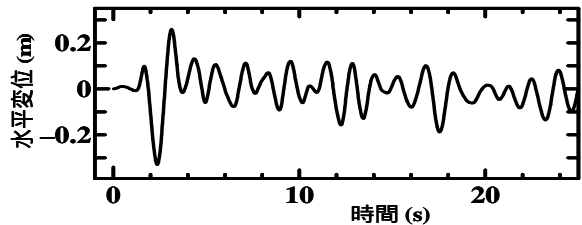


図 - 3 図の作成例

参考文献

- 1) Dafalias, Y. F. and Popov, E. P. : A model of nonlinear hardening loading, Acta Mecha., Vol.21, pp.173-192, 1975.
- 2) Y. C. ファン (大橋義夫, 村上澄男, 神谷紀生共訳): 固体の力学 / 理論, 培風館, 1970.

(2006年9月11日受付)